

高校世界史プリント（過去問類似）

近世（結びつく世界） No.1

名前

得点

/11

問1 15世紀半ばのドイツにおいて、改良された金属活字を用いた活版印刷術を実用化し、のちの宗教改革における聖書の普及やルネサンスの思想伝達に決定的な影響を与えた人物は誰か。 (2020年 全国公立入試 類似)

1. パラケルスス 2. ヴェサリウス 3. グーテンベルク 4. コペルニクス

問2 17世紀後半、財務長官コルベールの指導のもとで東インド会社を再組織し、アジア進出を本格化させた国が、インドにおける貿易拠点として獲得した、シャンデルナゴルと並ぶ代表的な都市はどこか。 (2011年 全国公立入試 類似)

1. ゼーランドディア 2. ポンディシェリ 3. ナーガパトナム 4. トランケパール

問3 15世紀半ば以降、オーストリアを本拠地とするハプスブルク家とその帝位をほぼ世襲的に独占するようになった、中世から近代にかけてドイツを中心に存在した帝国は何か。 (2014年 全国公立入試 類似)

1. プロイセン王国 2. ポルトガル王国 3. 神聖ローマ帝国 4. エルサレム王国

問4 前漢の武帝は、匈奴への遠征などによる財政難を解決するため、桑弘羊らの建策を採用して国家による経済統制を実施した。このとき、鉄や酒とともに国家が専売とした、生活に不可欠な鉱物資源は何か。 (2006年 全国公立入試 類似)

1. 酒 2. 茶 3. 鉄 4. 塩

問5 清朝において、直轄地や中国本土（内地）とは異なる、モンゴル・青海・チベット・新疆などのいわゆる「藩部」を管理・統治するために設置され、のちにロシアとの外交事務なども管轄した中央官庁は何か。 (2012年 全国公立入試 類似)

1. 都察院 2. 翰林院 3. 理藩院 4. 軍機処

問6 15世紀末以降、ヨーロッパ人が大西洋を渡ってアメリカ大陸に進出した際、彼らが持ち込んだ病原体は先住民に壊滅的な打撃を与えた。このうち、先住民が免疫を持たなかったため大流行し、人口激減の主要因となった、高熱と発疹を伴う代表的な伝染病は何か。 (2018年 全国公立入試 類似)

1. 黒死病 2. 天然痘 3. 破傷風 4. 黄熱病

問7 明の洪武帝が、民衆統治と財政基盤の安定のために整備した、110戸を単位として徴税や治安維持の責任を共同で負わせた村落行政制度を何というか。 (2005年 全国公立入試 類似)

1. 保甲制 2. 三長制 3. 郡県制 4. 里甲制

問8 13世紀初頭に奴隷出身の将軍によって創始され、1526年に滅亡するまで、デリーを首都として北インドを支配した5つのイスラーム王朝の総称を何というか。 (2015年 全国公立入試 類似)

1. トゥグルク朝 2. バフマニー朝 3. サイド朝 4. デリー＝スルタン朝

問9 近世から近代にかけてのプロイセンにおいて、エルベ川以東の地域を中心にグーツヘルシャフトと呼ばれる大土地所有経営を行い、農民を厳しく支配した地主貴族を何というか。彼らは国家の官僚や軍隊の要職を独占し、ドイツの近代化過程においても保守的な政治勢力として強い影響力を保持続けた。 (2019年 全国公立入試 類似)

1. ユンカー 2. ノビレス 3. ボヤール 4. パトリキ

問10 15世紀から16世紀にかけて南米のアンデス山脈沿いに広大な領域を支配し、文字を持たない代わりにキープ（結縄）を用いて情報を記録・伝達した、クスコを首都とする帝国は何か。 (2025年 全国公立入試 類似)

1. インカ帝国 2. アステカ帝国 3. チムー帝国 4. トルテカ帝国

問11 16世紀後半、カトリックの擁護者として、領土であったネーデルラントにおけるカルヴァン派などの新教徒を厳しく弾圧し、のちのオランダ独立戦争を招く契機をつくったスペイン国王は誰か。 (2020年 全国公立入試 類似)

1. カール5世 2. シャルル9世 3. フェリペ2世 4. ヘンリ8世

答え合わせ・解説 No.1

問1	答え 3 グーテンベルク	15世紀半ばにマインツ出身の人物が開発した活版印刷術は、書籍の大量生産を可能にし、知識や情報の伝達速度を劇的に向上させた。これにより、ルネサンスの思想やルターの宗教改革における聖書の翻訳本がヨーロッパ各地に急速に普及することとなった。
問2	答え 2 ボンディシエリ	フランスは17世紀後半の1674年にインド東海岸のボンディシエリを獲得し、シャンデルナゴルとともにインド貿易の拠点とした。これは、16世紀初頭のポルトガルによるゴア占領や、17世紀初頭のオランダによるバタヴィア建設よりも後のできごとである。
問3	答え 3 神聖ローマ帝国	15世紀半ば以降、ハプスブルク家が皇帝位をほぼ独占するようになったのは神聖ローマ帝国である。この帝国は、1356年の金印勅書によって七選帝侯による選挙制が定められていたが、15世紀以降はハプスブルク家からの選出が常態化し、事実上の世襲となった。
問4	答え 4 塩	前漢の武帝期には、積極的な対外遠征によって国家財政が窮乏した。これを再建するため、桑弘羊らの主導により、生活必需品である塩・鉄・酒の専売制が実施された。これにより国家は莫大な専売利益を得て財政を潤したが、民間からは強い反発も招いた。
問5	答え 3 理藩院	清朝は、満洲や中国本土以外の周辺地域を「藩部」として間接統治した。これらの藩部を統轄するために設置されたのがこの官庁であり、理藩院と呼ばれる。のちにキャフタ条約などでロシアとの交渉窓口にもなった。
問6	答え 2 天然痘	ヨーロッパ人のアメリカ大陸到達に伴い、それまで隔離されていた南北アメリカ大陸に旧大陸の病原体が持ち込まれた。特にこの感染症は強い感染力を持ち、免疫を持たない先住民の間で猛威を振るった。これにより、鉱山や大農場での過酷な労働と相まって、先住民人口は激減することとなった。ペストやコレラなども歴史上重要な感染症であるが、この時期のアメリカ大陸で最も致命的な影響を与えたのはこの病である。
問7	答え 4 里甲制	明の洪武帝は、元末の混乱で荒廃した農村を再建し、財政基盤を確立するため、110戸を1里とし、そのうち富裕な10戸を里長戸、残りの100戸を甲首戸として、徴税や治安維持を共同で担当させる里甲制を導入した。これにより、国家が直接農民を把握する体制が整えられた。
問8	答え 4 デリー=スルタン朝	1206年にクトゥブッディーン・アイバクが奴隷王朝を建ててから、1526年にロディー朝が滅亡するまで、デリーを首都とした5つのイスラーム王朝（奴隷朝、ハルジー朝、トゥグルク朝、サイイド朝、ロディー朝）が興亡した。これらを総称してデリー=スルタン朝と呼ぶ。
問9	答え 1 ユンカー	エルベ川以東のプロイセンでは、16世紀以降、地主貴族が農民の移動の自由を奪って農奴として使役し、輸出用の穀物を生産するグーツヘルシャフト（領主裁判権を伴う大土地所有制度）が発達した。この地主貴族は官僚や軍隊の将校などの要職を独占し、プロイセンおよび統一後のドイツ帝国において支配層として政治・社会に強い影響力を持ち続けた。ビスマルクもこの階層の出身である。
問10	答え 1 インカ帝国	15世紀から16世紀にかけて、南米のアンデス地域を中心に栄えた帝国である。首都クスコから伸びる道路網（インカの道）を整備し、キープ（結縄）と呼ばれる紐の結び目で情報を記録・伝達した。16世紀前半にスペイン人のピサロによって滅ぼされた。
問11	答え 3 フェリペ2世	ハプスブルク家のスペイン国王は、熱烈なカトリックの立場から、領土であるネーデルラントのカルヴァン派（プロテスタント）を厳しく弾圧した。この政策に対する現地の人々の反発が、オランダ独立戦争へと発展した。